

医師は薬剤師に何を望んでいるか、—評価される薬剤師とは—<sup>1)</sup>

松本宜明,\* 清水万紀子, 福岡正道

**What Doctors Expect of a Pharmacist's Work**  
—How a Pharmacist is Evaluated by Doctors—Yoshiaki MATSUMOTO,\* Makiko SHIMIZU, and Masamichi FUKUOKA  
*Department of Clinical Pharmacology and Toxicology, Showa Pharmaceutical University,*  
*3-3165 Higashitamagawagakuen, Machida, Tokyo 194-8543, Japan*

(Received October 15, 2002; Accepted December 26, 2002)

In recent years, a pharmacist's work has changed in terms of therapeutic management and counseling of patients. Generally, a pharmacist has to provide pharmaceutical care in cooperation with a doctor. In the present study, a questionnaire survey on what a doctor expects of a pharmacist was conducted, and directors of hospital were interviewed on what they expect of a pharmacist. Eighty-two doctors participated in the survey. As results, doctors consider that a pharmacist's work is dispensing of drugs (41%), and highly evaluated the works of a pharmacist in advising doctors regarding pharmacotherapy (29%), checking the prescription (28%), providing patient compliance instructions (27%) and providing drug information (26%). Five directors of hospital expect the pharmacists to carry out risk managements and prescription checks, provide drug information, and consultation on drug costs. In addition, doctors want pharmacists to have more knowledge on pharmacotherapy. These results clearly show what doctors expect of a pharmacist's work.

**Key words**—pharmacist; doctor; work; questionnaire; dispensing; pharmacotherapy

## 緒 言

薬剤師は調剤と薬物療法への支援を主な業務として行っている。近年の医療環境の著しい変化により、薬剤師を取り巻く環境も変化し、新たな業務内容が明らかになってきている。<sup>2)</sup> 医薬分業の推進とともに、病院薬局では薬剤管理指導、調剤薬局では服薬指導など患者への接遇が重要となっている。また施設面では、コンピュータ技術の発展による情報量の充実、自動化の進展による処方オーダーリングシステム、処方監査システム、全自動調剤機などによる調剤業務の合理化などが進められている。<sup>3)</sup>

このような変化の中で、薬剤師が果たすべき役割も変化してきていると考えられる。それらの役割を認識し、的確に業務に反映させることが今後重要と考える。薬剤師又は患者による薬剤師業務に対する評価及び検討は従来から報告されているが、医師が医療チームの一員である薬剤師に対し、どのように評価し、どのような役割を期待しているかについて

は検討する報告はあまり見受けられない。そこで、今回これからの薬剤師のあり方を探るために、医師に薬剤師の活動に対しアンケートを行い、医師の薬剤師に対する認識を客観的に確認し、これからの薬剤師のあるべき姿について検討した。

## 方 法

## 1. 医師に対するアンケート調査

医師に、直接又は郵送によりアンケートを行った。対象とする医師の選択は、内科、外科、小児科、麻酔科の医師に依頼し、診療科、院内、院外を問わず行った。

アンケートの質問内容は、薬剤師の仕事とは？(認識を問う)、薬剤師の仕事で役に立っている仕事は？(現状を問う)、薬剤師に行って欲しい仕事は？(希望を問う)、薬剤師の仕事として評価できるものは？(評価を問う)、病棟での服薬指導以外の仕事は？(認識を問う)、薬剤師に望むことは？(要望を問う)、について質問し (Table 1)、自筆記入で回答を求めた。

アンケートでは医師の自筆回答の表現が様々であ

るため、次のように表現を各1つにまとめて記述した。薬剤師が処方せんを受け取り、調製した調剤薬を患者に交付するまでの行為としての院内調剤・院外調剤は調剤、医薬品の情報提供・副作用情報・新薬情報は医薬品情報、注射薬管理・麻薬管理・在庫管理及び注射せんによる払い出しは医薬品管理、薬理学の知識・臨床薬理学的知識・薬物治療の知識などは薬理学的知識、病棟・病院薬局又は調剤薬局における服薬指導は服薬指導、薬品名チェック・投与量チェック・併用薬チェック等の処方せんのチェックは処方チェックとした。

## 2. 総合病院院長に対するインタビュー調査

総合病院院長に対するインタビュー調査として5施設（100床未満1施設、100—500床未満2施設、500床以上2施設）を内科医師により選定した。院長へのインタビューは院長に直接質問し、管理的立場から薬剤師に対し、抱いている認識・評価・要望・今後の展望等についてどのように考えているかをインタビューし、記録した。

Table 1. Items in a Questionnaire

- 薬剤師の仕事とは？（認識）
- 薬剤師の仕事で役に立っている仕事は？（現状）
- 薬剤師にやって欲しい仕事は？（希望）
- 薬剤師の仕事として評価できるものは？（評価）
- 病棟での服薬指導以外の仕事は？（認識）
- 薬剤師に望むことは？（要望）

## 結 果

### 1. アンケート調査結果

アンケート回答医師は病院勤務医73名、開業医9名、計82名、性別は男性59名、女性23名であった。年齢分布をFig.1に示す。病院施設規模は1000床以上36名、1000床未満—500床以上17名、500床未満20名であった。所属科をFig.2に示す。アンケートの回収率は91%であった。

医師に対して行った、薬剤師の仕事に関する質問と回答項目及び回答件数をTable2に示す。薬剤師の仕事とは？の質問に対し、回答として挙げられたものは、多い順に、調剤；34名、医薬品情報；28名、医薬品管理；21名、服薬指導；19名、処方チェック；16名、薬理学的知識；15名であった。しかし、薬剤師との接触が少ないと思われる医師からの回答には、薬のプロフェッショナル・薬剤に詳しい方などの抽象的な表現が見られた。一方で投与量のチェック・処方チェックにより医師の処方ミスを防ぐ、薬剤開発など、医療のパートナーとして薬剤師を様々な面で活用している医師の回答も見られた。

薬剤師の仕事で役に立っていることは？の質問に対し、多い順に医薬品情報；31名、処方チェック；22名、薬理学的知識；19名、空欄又はなし；15名、服薬指導；14名、調剤；8名であった。医薬品情報の中でも、新薬や新規採用薬剤に関する情報、副作用・相互作用に関する情報などが役立つこととして挙げられていた。また処方ミスのチェッ

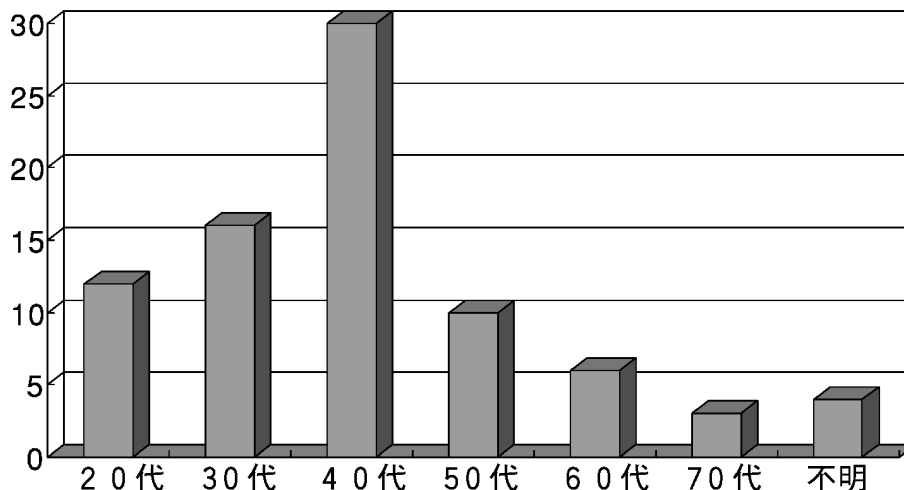


Fig. 1. Age and Number of Doctors Who Participated in the Questionnaire Survey

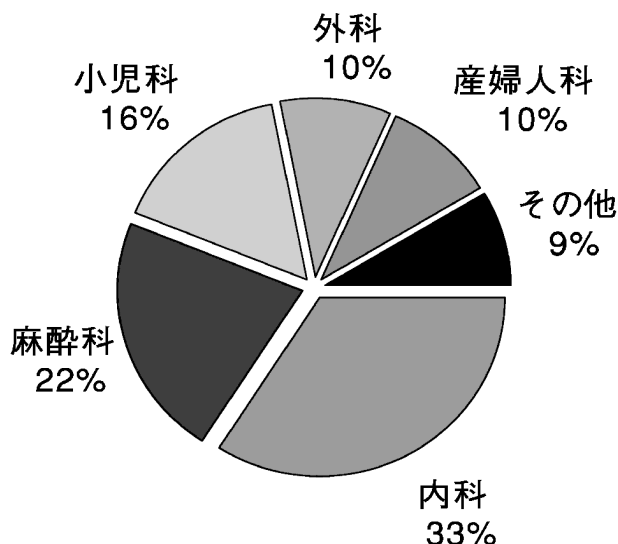


Fig. 2. Percentage of Department of Doctors who Participated in the Questionnaire Survey

Table 2. Evaluations of Pharmacist's Work by Doctors

薬剤師の仕事とは？	役立っている仕事とは？	行って欲しい仕事とは？	評価できる仕事とは？
調剤 34 (41%)	医薬品情報 31 (38%)	医薬品情報 25 (30%)	薬理学的知識 24 (29%)
医薬品情報 28 (34%)	処方チェック 22 (27%)	処方チェック 12 (15%)	処方チェック 23 (28%)
医薬品管理 21 (26%)	薬理学的知識 19 (23%)	薬理学的知識 11 (13%)	服薬指導 22 (27%)
服薬指導 19 (23%)	空欄又はなし 15 (18%)	医薬品管理 7 (9%)	医薬品情報 21 (26%)
処方チェック 16 (20%)	服薬指導 14 (17%)	注射薬の混注 7 (9%)	医薬品管理 9 (11%)
薬理学的知識 15 (18%)	調剤 8 (10%)	患者サービス 7 (9%)	調剤 9 (11%)

82 人中の回答項目，件数（％）。

ク，配合禁忌のチェックなど安全管理に関する処方チェックが挙げられていた。他に薬歴管理，製薬会社との連絡窓口なども役立つこととして挙げられていた。一方で，空欄又はなしの回答も少なからず見られた。

薬剤師に行って欲しい仕事は？についての質問に対し，多い順に，医薬品情報；25名，処方チェック；12名，薬理学的知識；11名，医薬品管理；7名，注射薬の混注；7名，患者サービス；7名などが挙げられた。項目にまとめられない回答も多く見られた。病棟業務，回診への参加，患者を含めた関係者への薬剤の詳細な情報の発信，医療事故の完全防止，病状・各科に則した対応・投薬指導，薬剤の保険適応に関する情報などが挙げられていた。一方

で，院外薬局の対応において，医師が患者に説明した服用方法と異なった服薬指導をされ，患者・医師ともに困っているとの意見も見られた。

薬剤師の仕事の中で評価できる仕事は？の質問に対し，多い順に，薬理学的知識；24名，処方チェック；23名，服薬指導；22名，医薬品情報；21名，医薬品管理；9名，調剤；9名であった。評価できるとして挙げられた仕事には上記のような項目には包括されない，医師にとって，治療により役立つことが評価の対象となっていた。これらの項目としては，薬剤師の仕事の正確さ・緻密さ，多剤併用患者の薬の整理，他院処方薬の院内使用薬への変更，アレルギー情報など薬剤師の専門性が評価の対象となっていた。経営的視点の薬剤管理についても

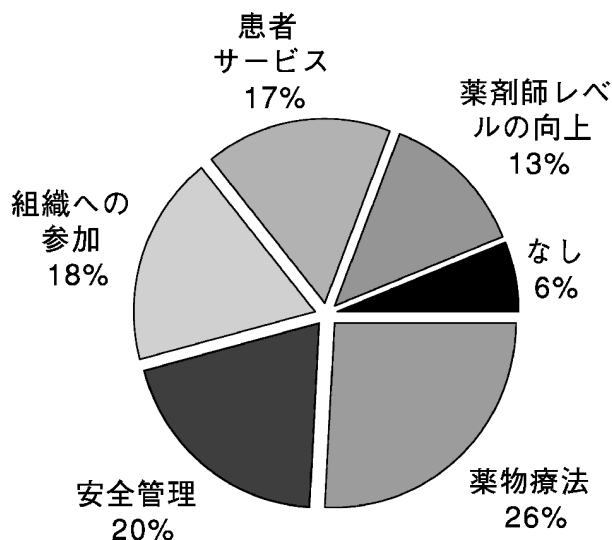


Fig. 3. What Doctors Expect of a Pharmacist's Work

記載されていた。

病棟での服薬指導以外の仕事は？の質問に対し、41名が知らないと回答していた。知っているとした医師の具体的な内容は、医薬品管理、医薬品情報、医師・看護師への助言、薬歴管理、調剤などであった。

薬剤師に望むことは？の質問に対し、多い順に、薬物療法、安全管理、チーム医療への参加などの組織、患者へのサービス、薬剤師レベルの向上に関する事項の順であった (Fig. 3)。薬物治療に関する内容を Table 3 に、安全管理、組織への参加、患者サービス、薬剤師レベルの向上に関する内容をそれぞれ Tables 4-7 に示す。薬物療法に関する回答で多い項目は、薬剤師に行きたく仕事及び評価できる仕事と同様であった (Table 3)。安全管理に関しては、薬剤師の仕事としてチェック機能等が多く、医師単独ではなく薬剤師の責任分担を望む声が見られた (Table 4)。組織に関することは、他部門との連携、現場への参加、さらに医業のパートナー等が医師からの要望であった (Table 5)。また、組織の一員として、医師ともっとコミュニケーションをとって欲しい、高度医療の現場でチームに加わって欲しい、薬局内だけでなくもっと病室に出て来て欲しい、などチーム医療の一員としての活躍を望む意見が見られた。患者に対する希望としては、服薬指導、患者サービス、患者教育が最も多かった (Table 6)。薬剤師のレベルに関しては、Table 7 に示す事項が記載されていた。

Table 3. What Doctors Expect of a Pharmacist's Work of Pharmacotherapy

• 詳細な医薬品情報	10
• 薬物治療のアドバイス	8
• 併用薬の相互作用	4
• 副作用情報、説明	4
• 正確な調剤	3

82 人中の回答項目、件数。

Table 4. What Doctors Expect of a Pharmacist's Work of Risk Managements

• 処方チェック、薬剤師のアドバイスによる処方	15
• 情報の共有化	7
• 併用薬の相互作用	4
• 薬剤管理	3
• 在庫管理	2

82 人中の回答項目、件数。

Table 5. What Doctors Expect of a Pharmacist's Work of Organizational Behavior

• 他部門との連携、現場への参加	14
• 医業のパートナー	6
• ベッドサイドでの活動	2
• 病院運営への参画	1
• 院内薬剤の一覧作成	1

82 人中の回答項目、件数。

## 2. 総合病院院長へのインタビュー結果

総合病院院長 5 名へのインタビューにおいて、病院長の立場から見た病院薬剤師に対する評価及び要

望等について質問した結果、意見には5名とも大きな違いは認められなかった。現状の認識としては、他部門、特に医師との接点が少ないため、実際の業務としては調剤及び医薬品管理のみが主な仕事内容となり、薬剤師の能力を十分に発揮できていない場合があると考えていた。もっと他部門との接点を持つことで、医師・看護師・患者との間で情報の共

有・医療への積極的参画をすべきと考えていた。また、医薬分業が進む現在、病院薬剤師は調剤以外の業務を行わなければならないと考えていた。医師に対しても、コメディカルに対しても、患者に対しても薬剤師自らが考え積極的に医療チームの中に参加し、自己アピールする姿勢が必要と考えていた。さらに医療経済の観点から見た効率の良い薬剤の選択、処方書き方などを薬剤師が指導し、処方チェックなど安全管理にもさらに多く加わることを望んでいた。

Table 6. What Doctors Expect of a Pharmacist's Work of Patients Service

• 十分な服薬指導, 患者サービス, 患者教育	18
• 副作用の説明	3
• 一般薬の正しい知識と指導	1

82人中の回答項目, 件数.

Table 7. What Doctors Expect of a Pharmacist's Work of Pharmacist Knowledge

• レベルの向上, 自己研鑽	5
• 服薬指導が画一的すぎる	4
• 病態を把握して薬の指導, 情報を提供して欲しい	4
• 主治医の意向を無視した情報を伝えないで欲しい	2
• 薬剤に関し強い発言力をもつ努力, 勉強をして欲しい	1
• 薬剤師のレベルの差を縮めて欲しい	1

82人中の回答項目, 件数.

### 考 察

近年、医薬分業の推進、業務内容の変化に伴い、薬剤師のなすべき役割、期待される業務も変化してきている。<sup>4,5)</sup> 患者からの要望は直接受ける機会も多く、患者対応には工夫・改善が必要と考えられている。<sup>6)</sup> さらに薬剤師による患者に対する指導の意義が明確に実証され報告されている。<sup>7-9)</sup> このような状況のなかで、薬剤師間での検討・自己評価はなされてきたものの、現在薬物治療の処方発信源である医師からの薬剤師に対する評価を検討し、今後の薬剤師のあり方を考察したものはあまり見受けられない。今回行った医師へのアンケートにより、医師が医療チームの一員である薬剤師に対して、どのよう

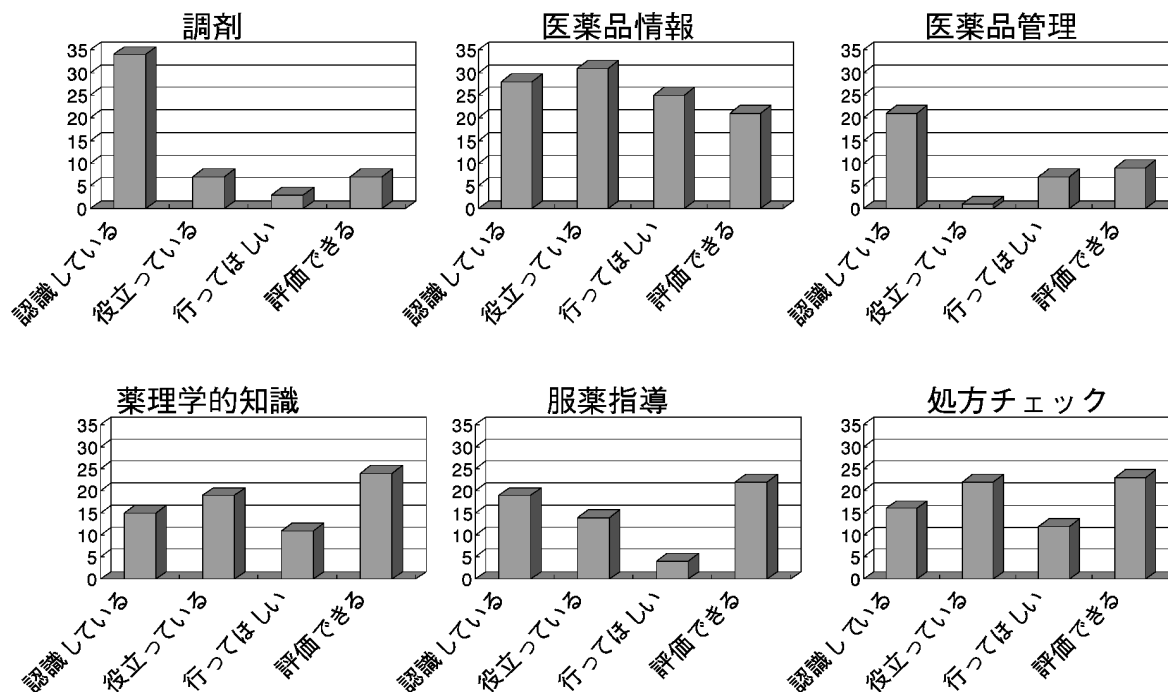


Fig. 4. Questions and Number of Answers in the Questionnaire

に認識し、評価しているか、どのような要望を持っているかを、アンケートを通して明らかにすることができたと考えられる。医師のアンケート、院長の意見では、現状の薬剤師業務は薬局に限局されることが多く、他部門との接点が少なく、薬剤師の専門性を利用し、発揮してもらうことが足りないと感じていた。ひいては薬物療法が一番の恩恵を受けるべき患者自身の治療方針に関しても薬剤師の専門知識が現在は十分に生かされていない場合がある。また薬剤師自身は十分に機能していると考えていることが、他部門から見ると薬剤師が活躍すべき分野はまだまだ多くあると考えられていた。Figure 4に調剤、医薬品情報、医薬品管理、服薬指導、処方チェック、薬理学的知識に注目し、それぞれの業務の現状認識、役立っている仕事、行って欲しい仕事、評価できる仕事をアンケートに基づき比較した。この中で、現状では調剤が主な仕事と認識されているが、実際に医師の評価が高い業務は薬理学的知識であった。以上のアンケート結果及び病院長の意見を総合すると、①薬理学的知識の向上、②投薬計画、治療経過へ参加する専門性を持つ薬剤師のアピール、③回診等への参加、他部門への参加、④看護師、病棟、全職員に向けて薬剤師としての専門性を生かした教育活動、⑤医療経済面での参加、⑥薬物治療面での医療事故防止への参加などが、調剤を正確に行いながらこれからの薬剤師に求められていると考える。

今後インターネットなどを通して、一部の患者も薬剤師と同等の知識を持つ時代になると考えられ、病院内、薬局において、薬剤師が治療の最終目標である患者に貢献するためには、更なる専門性が必要と考える。今以上に存在価値のある薬剤師となり、医師・看護師・その他の医療スタッフから信頼され、活躍できる存在になることが重要と考えられる。本調査の医師へのアンケートにより、必要な事項を抽出し、薬剤師の活動の場を広め、医療にさらに貢献できるようになることを望む。

**謝辞** 本調査研究にあたり、医師への連絡などをまとめて頂いた上野高次博士、村山良介博士、三

浦寿男博士、松本玲子博士に感謝申し上げます。またアンケート調査にご協力頂いた医師の皆様に深く感謝申し上げます。

## REFERENCES

- 1) Matsumoto Y., Abstracts of Papers, Clinical Pharmacy Forum 2002/10th Clinical Pharmacy Symposium, Chiba, July 6, 2002, p. 67.
- 2) Hamai T., Kimura M., Suzuki T., Misaki Y., Shiga Y., Nishigaki M., *Jpn. J. Pharm. Health Care Sci.*, **27**, 193–204 (2001).
- 3) Watanabe M., Sugiura M., Seino T., Mitsunaga Y., Nakanura H., Yamada Y., Tsuchida F., Ohe K., Iga T., *Yakugaku Zasshi*, **122**, 841–847 (2002).
- 4) Hashimoto H., Oyake T., Ikeda T., Gomi T., Yoshida M., Fujimoto T., Umezu M., Nagashima K., Fujita T., Hori M., Tanaka M., Fujii M., Matsumoto M., Matsumoto Y., Fukuoka M., Ishi M., *Jpn. J. Pharmacoevidemiol.*, **4**, 133–148 (1999).
- 5) Hashimoto H., Tanaka M., Oyake T., Gomi T., Ikeda T., Yoshida M., Fujimoto T., Umezu M., Nagashima K., Fujita T., Fujii M., Matsumoto Y., Fukuoka M., Matsumoto M., Ishi M., *Jpn. J. Hosp. Pharm.*, **25**, 634–642 (1999).
- 6) Hashimoto H., Tanaka M., Oyake T., Gomi T., Ikeda T., Yoshida M., Fujimoto T., Umezu M., Nagashima K., Fujita T., Fujii M., Matsumoto Y., Fukuoka M., Matsumoto M., Ishi M., *Jpn. J. Hosp. Pharm.*, **26**, 52–60 (2000).
- 7) McCombus J. S., Liu G., Shi J., Feng W., Cody M., Parker J. P., Nichol M. B., Johnson K. A., Groshen S. L., Nye M. T., *Am. J. Health-Syst. Pharm.*, **55**, 2485–2499 (1998).
- 8) Johnson K. A., Parker J. P., McCombs J. S., Cody M., *Am. J. Health-Syst. Pharm.*, **55**, 2621–2629 (1998).
- 9) Zermansky A. G., Petty D. R., Raynor D. K., Freemantle N., Vail A., Lowe C. J., *Br. Med. J.*, **323**, 1340–1343 (2001).